

厚生文教常任委員会 行政視察 報告書

平成30年11月26日

白石市議会議長 志村 新一郎 殿

議員氏名 松野 久郎

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成30年11月13日(火) ～ 11月14日(水)
調査・研修先	愛知県一宮市・静岡県藤枝市
調査事項 (研修事項)	<p><愛知県 一宮市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて ・一宮市立中央図書館視察 <p><静岡県 藤枝市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・“健康・予防日本一のまち藤枝”づくりに向けた「ふじえだプロジェクト」について
対応者・講師等	<p><愛知県 一宮市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会 教育文化部 学校教育課 指導主事 池山清二 氏 ・議会事務局 次長 山田 均 氏 <li style="padding-left: 2em;">議事調査課 課長 脇田佳彦 氏 <li style="padding-left: 2em;">調査グループ 課長補佐 高橋篤人 氏 <p><静岡県 藤枝市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部 健やか推進局 健康企画課(兼病院連携室) <li style="padding-left: 2em;">課長 平澤孝之 氏 ・議会事務局 次長 森谷浩男 氏



<p>概 要</p> <p>① 背景・目的</p> <p>② 内容・特色</p> <p>③ 主な質疑</p> <p>④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)</p>	<p><愛知県 一宮市></p> <p>【概 要】</p> <p>① <背景・目的></p> <p>◎ I C Tを活用した教育の取り組みについて全般とプログラミング教育の実態について視察。 (情報教育の充実を掲げるその取り組み状況と学習効果や今後の取り組みや課題についての調査を目的に実施)</p> <p>② <内容・特色></p> <p>■一宮市学校教育推進プラン（平成30年）を基本に取り組み状況について説明がなされた。</p> <p>1) 一宮市の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：113.82Km² ・人口2018年4月1日現在 385,777人 ・小学校数：42校（児童数 21,675人） ・中学校数：19校（生徒数 10,855人） <p>2) 一宮市学校教育推進プランの概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす子ども像」 <p>知・徳・体の調和がとれ、夢に向かって挑戦する「未来を拓く子ども」 ◇めざす子ども像を実現するための5つのプランを柱として策定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力育成プラン 2. 豊かな心育成プラン 3. 健やかなからだ育成プラン 4. 未来に生きる力育成プラン 5. 信頼される学校づくりプラン <p>3) 教育の情報化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇情報教育：情報活用能力の育成 ◇教科指導における I C T活用： I C Tを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現 ◇校務の情報化： I C Tを活用した統合型校務支援システムの導入等による効率的な校務の遂行 ◆3つの側面を通じた教育の質の向上 <p>4) 学校における I C T環境整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇教育の I C T化に向けた環境整備5ヵ年計画（2018～） ・学習者用コンピュータ：3クラスに1クラス分程度整備
---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者用コンピュータ：授業を担当する教師1人1台 ・大型提示装置・実物投影機 100%整備 各普通教室1台、特別教室用として6台 ・超高速インターネット及び無線LAN 100%整備 ・総合型校務支援システム 100%整備 ・ICT支援員 4校に1人 配置 ・他、学習用ツールや校務用サーバー、各種ソフトを配備 <p>5) ICTを活用した教育について</p> <p>◇小学校での情報教育（総合的な教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生（年間5時間程度）：お絵かきソフトの利用など ・3・4年生（年間5時間程度）：ワープロソフトの利用など ・5・6年生（年間10時間程度）：ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの利用 ・全学年（年間2時間程度）：情報モラル <p>◇中学校での情報教育（3年生は技術科の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生（年間4時間）：コンピュータと情報通信ネットワーク ・3年生（年間18時間） <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル作品の設計・製作（9時間） ・プログラムによる計測・制御（7時間） ・情報に関する技術の評価・活用（2時間） <p>◇教員のICT活用研修（平成29年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修（1日）：実物投影機やデジタル教科書の活用 ・夏季集中研修（2日） <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトの活用法 ・表計算ソフトの活用法 ・プログラミング教育 ・情報モラル教育 ・冬季研修（1日）：研究校に学ぶプログラミング教室 <p>6) プログラミング教育について</p> <p>○一宮市独自の研究指定（平成28年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校、中学校1校にタブレット（各校10台）を配置して実施（H28・H29の2年指定） <p>○文部科学省の研究指定（平成28・29年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の教育情報化推進事業（IE-School） ・教科横断的な情報活用能力の育成のためのカリキュラム・マネ
--	---

ジメント

○Pepper 社会貢献プログラムスクールチャレンジ

- ・Pepper を活用して、小中学校（27校）でプログラミング教育を実施

※Pepper（ペッパー）（ソフトバンクの人間型ロボット）
ソフトバンク提供による Pepper 社会貢献プログラム

【期間】平成29年度から平成31年度の3年間

【導入校数】小学校15校（／42校）
中学校12校（／19校）

【導入台数】1校あたり7～8台

○わくわくプログラミング教室（市教主催）

- ・小学校5・6年生を対象とした希望者のプログラミング教室
- ※ロボットプログラミング教材を使って、自分でプログラムを組んでロボット教材を動かす研修

③ <主な質疑>

Q：学校におけるICT教材は足りているのか

A：タブレットが足りていない

Q：教員のICT教育はどうしているか、プログラミングソフト「スクラッチ」を使用した教育について白石市でも指定校で行っているが、指導教員の力量はどうか

A：教員向け研修を行っているが、全教員のスキルアップは難しい、現在は各学校から比較的技能のある教員を研修し、その後研修受講者により各学校で先生方に教えるやり方で行っている

Q：教育情報セキュリティの確保で情報モラル教育は大切だと思うが、どのように実施しているのか

A：情報モラルリーフレット（文部科学省作成のリーフレットと独自に作成したリーフレット）により教育している

④ <考察>

- ・一宮市は学校教育推進プランを策定し、各プランにおいて視点を明確にし、施策と目標を定め取り組んでいる。施策内容は分かりやすく良く纏まった内容になっていると感じた。今回の視察目的である

「ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて」は、一宮市学校教育推進プランでは、「未来に生きる力教育プラン」を掲げ取り組んでいる。説明でキーボードが打てない子供たちが多いとの話もあり、各企業の採用での悩みも理解していたことに、企業の一員であった私が感じていたことが、指導主事としてそこまで把握していたことは、子ども達の将来を見据えた教育をしていると感心した。プログラミング教育では、研究指定校となって大変苦勞したとのことであったが、プログラミング教育への取り組みを、プログラムを組むと言うことを通して、論理的思考力の育成に力を注いでいることが感じ取れた。また、情報モラル教育ではモラルの向上に向けた啓発活動に取り組んでいることは、まさに未来に生きる力の育成に取り組んでいると感じた。指導する教員のICT技術の育成では、白石市同様苦勞していると感じたが、それなりの対応を市独自でも検討し施策を講じていることは学ぶ必要がある。今後の白石市の施策を注視したい。

■一宮市立中央図書館の視察について

一宮市の職員随行はなかったが、独自で見学を実施した。

○尾張一宮駅ビルに平成25年1月にオープン。5階には、児童エリアで絵本・紙芝居・児童書を取りそろえ、子どもや親子が気兼ねなく本と親しめる空間となっている。読み聞かせする「おはなしのへや」や、靴を脱ぎリラックスして絵本を読むことができる「じゅうたんコーナー」があり、「児童調べ学習室」では、子ども達が学習していた。6階は一般書・視聴覚エリアとして、一般書・視聴覚資料・新聞・雑誌などがある。読み物や小説、趣味に関する本などを中心に配架されており、各コーナーで一般利用客が使用していた。7階は一般書と参考図書エリアで、研究や調査に役立つ資料やビジネスに役立つ資料があり、閲覧席やインターネットブース、持ちこみパソコン室もあり、数人が利用していた。一宮市には、他に5つの図書館と移動図書館ほたる号があり、機能充実が図られている。

<静岡県 藤枝市>

① <背景・目的>

◎健康・予防日本一のまちの取り組みについて、事業内容や特色について視察。

	<p>(藤枝プロジェクトの取り組み状況と効果、今後の取り組みや課題についての調査を目的に実施)</p> <p>■ “健康・予防日本一のまち藤枝” づくりに向けた「ふじえだプロジェクト」についての取り組み状況について説明がなされた</p> <p>1) 藤枝市の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：194.06 Km² ・人口：2018年9月末現在 145,652人 ・世帯数：59,098世帯 ・平均年齢：46.86歳 ・高齢化率：29.0% <p>2) 藤枝市の重点戦略について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暮らしの基本」4K（頭文字）政策 <ul style="list-style-type: none"> ・健康 ・教育 ・環境 ・危機管理 <p>○1丁目1番地は市民の健康づくり⇒“健康・予防日本一” 藤枝プロジェクト⇒市民が、幸せな健康生活を少しでも長く続けられるまち>「選ばれるまち 藤枝」⇒若い世代を中心に定住人口増加中（10年連続で転入人口が転出より超過）</p> <p>■ 始まりは、平成24年度、第1回健康寿命をのばそう！アワードで自治体部門、厚生労働省健康局長 優良賞を受賞から「健康寿命延伸都市協議会」を発足（全国の25市町村が受賞）</p> <p>3) “健康・予防 日本一ふじえだ” 推進体制</p> <p>○市民・事業者・行政が一体となった推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【守る健康】命を守る 発病予防・重症化予防・地域保健・医療 ・【創る健康】命を輝かせる <ul style="list-style-type: none"> ・豊かなライフスタイル ・健康寿命の延伸 ・ポピュレーションアプローチ <p>■ 「個人で楽しめる健康」「みんなで楽しむ健康」</p> <p>守る健康 ⇒ 創る健康</p> <p>4) プロジェクト内容</p> <p>➢プロジェクト1 歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」（継続したウォーキングを支援）</p> <p>○東海道など各コースを設定し、1万km完走者を表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢世代：紙版でトライ ・働き世代：健康マイレージWeb版で提供
--	---

	<p>➤プロジェクト2 ふじえだ健康スポット20選 (地域の宝を健康づくりに活用)</p> <p>○「地域資源の魅力を発信」⇒「健康」を切り口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポットでウォーキングのイベントを開催 ・歩きながら名所や各ポイントでプレゼントも沢山 ・参加料200円【中学生以下は無料】 <p>➤プロジェクト3 ふじえだ健康マイレージ (日々の健康行動の実践と定着)</p> <p>○健康行動でポイントを貯める。期間は2週間以上実践(年間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の行動(運動・食事・休養・歯・体重測定)の5項目で計80点 ・ボーナス 健(検)診の受診・禁煙・社会参加で計20点 <p>■日々の行動(80点) + ボーナスポイント(20点) = 100点になったら申請⇒1年間有効のマイレージカード交付⇒協力店でお店ごとの特典が得られる(例:買い物額の5%off ・お食事でコーヒー1杯サービス・お店のポイント2倍 etc)</p> <p>5) ふじえだ健康マイレージの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇藤枝市と静岡県の連携・情報交換で県内にも展開⇒マイレージが使用できる協力店が県内に増える(市内以外でも使用できるメリット:県内約1,000店舗加盟) ◇健康マイレージWebシステムも立ち上げる(若い世代の参加者が増える) <p>◆健康マイレージの検証を実施</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や店舗の協力でインセンティブが持続(公費投入無) ・告知やアンケートの経費を節減(Web版で一斉メール) ・ユニークな取り組みが全国から注目(シティプロモーション) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短いチャレンジ期間後の健康行動の定着 ・もっと勘便(手間不要)で客観的なデータの取得 ・科学的な効果の測定(手法の導入) <p>6) 他の取り組み</p> <p>➤楽しく歩いて健康アプリ「あるくら」の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康無関心層に対し、「楽しく簡単に」健康行動の「見える化」を促し、正しい生活習慣を定着させる
--	--

➤ 「賢く食べて健康」 C級グルメグランプリ

- ・低カロリー (Calorie) でヘルシー (C) だけど美味しい (C) をコンセプトとしたレシピグランプリ大会

➤ 「賢く食べて健康」 野菜を食べて健康フェア

- ・食育の観点から、包括連携協定を締結したカゴメ(株)と連携し、日々の食事での野菜の摂取不足を解消する取り組み

7) ふじえだ“まるごと”経営プロジェクトについて

【基本理念】

- ・ふじえだ健康創生総合戦略で目指す“健康都市”は「市民一人ひとりが安全・安心に健やかに暮らせ、産業とまちが健全に発展し、社会貢献活動で地域全体で支え合う“都市”と“ひと”が元気なまち」である。

➤ “こころ”の幹に咲かせよう！健康の藤の花幸福度の高いまち・QOL (生活の質) の高いまち

8) 民間活力を導入について

- ・各種包括連携協定を締結。2社と3団体

② <主な質疑>

Q：健康の効果測定をどのようにしているのか

A：市内医師会と連携し行っている

Q：健康マイレージは1年間に2週間と短いが継続性があるのか

A：概ね5年間で達成者は1,993人、リピート率は参加者2,620人で53.4%、参加者の半数は持続性があったと思う

Q：健康マイレージの他に、環境マイレージや教育マイレージ、交通安全マイレージも実施しているが、マイレージカードの使用は全て同じなのか

A：各マイレージカードは参加加盟店で全て有効となっている

Q：特定健康受診率アップやがん検診率アップをするための工夫をどのようにしているのか

A：市内には、1,000人の健康委員がいる。各自治会と町内会で健康委員を任命し、委員による啓蒙活動を実施している

③ <考察>

- ・第1回の「健康寿命をのばそうアワード」で「“健康・予防日本一”ふじえだプロジェクト」が厚生労働省健康局長から優良賞を受賞したのが始

まりのきっかけであったとのことだが、課長以下職員3名の体制で、企画から実施、検証を繰り返し様々な新規案件を提案し実施したことは素晴らしいと感じた。その背景には、各自治会や町内会に健康委員がいて、住民に身近に健康促進や相談、または問題点や疑問点があれば、健康委員が自治会長や町内会長を通して、行政に報告相談をする仕組みを30年前から行ってきたことが、新規事業を立ち上げて、そのネットワークあったからだとのことであった。「健康マイレージチャレンジ」では、達成すると「フジのくに健康いきいきカード」を発行し、協力店でいろいろな特典を受けることができる仕組みを構築、公費を一切使わずに加盟店からの協力得たのは、職員が各店舗をまわりお願いしたこと、そのことにより協力店のメリットとしては、宣伝をしなくともお客様が増えたこと、地元の商店にお客様が増えることで、まちも元気になると感じた。その発想と職員の行動力にも感心した。このマイレージ制度は、「健康マイレージ」から始まり、現在は、「交通安全マイレージ」や「環境マイレージ」、「教育マイレージ」と市の各部署にも波及し成果を挙げている。白石市においても、朝夕散歩している方が増えていることから、多くの市民が楽しく健康行動ができるよう、マイレージへの取り組みを提案したい。この事業は、公費を使用せずに展開ができること、市内の商店が元気になること、健康増進を通して波及メリットが大と考える。

以下余白